福井工業大学附属福井中学校　平成二十八年度　第Ⅲ期入学試験（国語）　　その一

受験番号	名前

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

木というのは、山の南側、北側、谷、峰など育つ場所によって、同じ種類の木でも①成長や材質に違いが出てきます。生育環境の違いによって、右にねじれたり左にねじれたり、節が多かったり少なかったり、柔らかかったり硬かったりと、それぞれに異なった特性を持つようになります。山の木は一本一本みな違います。これを「木癖」と言います。

宮大工の大切な仕事の一つに、その癖を見極め、建物のどの部分にどう使うか決めていくことがあります。温度や湿度の変化によって木は曲がったり割れたりします。②木は「暴れる」のです。

木癖を無視して、たとえば、右にねじれる木ばかりを組み合わせたりすれば、建物は右にねじれてしまいます。これを防ぐには右にねじれる木と左にねじれる木をうまい具合に組み合わせて、ねじれの力を相殺（※そうさい）してやる必要があります。

木癖を読み切り、適材を適所にあてがうことで、建物の歪（ゆが）みを防ぐとともに、長年月の風雪に耐（た）え得る堅牢（※けんろう）な社寺建築を実現するわけです。それが宮大工の「技」です。

これは「人」を育て、使うことにも通じます。③木がそうであるように、人もまた一人として同じ者はおりません。みなそれぞれに癖があり、得手不得手（※えてふえて）を持っています。腕（うで）がいいのもいれば、悪いのもいますし、飲み込（こ）みが早いのもいれば、遅いのもいます。実にさまざまです。それが人というものです。それをどうやって育て、使うかと言ったら、やはり木と同じように癖を読み、得手だけでなく、不得手な部分も上手に生かしてやる、ということだろうと思います。

（菊池恭二『宮大工の人育て』）

※　相殺…差し引いて帳消しにすること。　※　堅牢…しっかりしていて壊れにくいこと。

※　得手不得手…得意なことと不得意なこと。

問一　①「成長や材質に違いが出てきます」について次の各問いに答えなさい。

Ⅰ　違いが出てくる理由を、文章中から七字で書き抜きなさい。（　　）

Ⅱ　成長や材質の違いを何と言いますか。文章中から書き抜きなさい。（　　）

問二　②「木は「暴れる」のです」とありますが、「暴れる」とは木がどんなことによってどうなることですか。文章中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問三　③「木がそうであるように」とありますが、これは木のどのようなところについて述べたものですか。次の文の空らんにあてはまる文章中の言葉を、アは六字、イは四字で書き抜きなさい。

※木のそれぞれが（　ア　）を持ち、（　イ　）がみな違うところ。

ア…（　　）　イ…（　　）

問四　筆者は、人は育て、使うためにはどのようにするとよいと述べていますか。文章中から二十九字で探し、初めの六字を書き抜きなさい。（句読点も一字とする）（　　）

問五　この文章の構成の特徴として、正しいものを次から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア　前半で挙げた具体例に対し、後半で反対の例を挙げて反論している。

イ　前半で挙げた具体例に対し、後半でさらにくわしく説明している。

ウ　前半と後半で別の具体例を挙げ、その共通点について述べている。

エ　前半と後半で別の意見を述べ、どちらが正しいかを説明している。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

――昔、この近くの村に、おみつさんというむすめが住んでいました。おみつさんは、特別美しいむすめというわけでもありませんでしたが、体がじょうぶで、気立てがやさしくて、いつもほがらかにくるくると働いていたので、①村中の人たちから好かれていました。

さて、このおみつさんが、ある秋の朝、町の朝市へ、野菜を売りに出かけました。もう冬が近いので、すれちがう人たちも、なんだか気ぜわしそうに前かがみになって歩いていきます。おみつさんの足も、②それにつられたように自然と速くなりました。

町へ入るとすぐの四つ角に、げた屋さんがあって、大きなげたの形をした、すすけた看板が出ています。その前を通るとき、おみつさんは③ふと足を止めました。入り口近くの台の上に、かわいらしい雪げたが一足かざってあるのが目についたのです。

白い、軽そうな台に、ぱっと明るいオレンジ色のはなお。上品な、くすんだ赤い色のつま皮は、黒いふっさりとした毛皮のふち取りでかざられています。見ただけで、わかいむすめさんの、はなやかな冬のよそおいが、目の前にうかんでくるようです。

おみつさんは、その雪げたがほしくてたまらなくなりました。「でも、きっと高いんだろうな。」

うら返しになっているねだんの札を、あかぎれの指でそっとめくってみると、④思ったとおり、とても、とても、おみつさんのこづかいで買えるねだんではありません。「負けてくれと言ったって、とてもだめだろうしねぇ――。」

おみつさんは、しばらくそこに立って、⑤すい付けられたようにその雪げたをながめていました。

「いらっしゃい。何をあげますかいね。」

おみつさんがあんまり長いこと立っていたので、店のおくからおかみさんが出てきて声をかけました。おみつさんは⑥真っ赤になって、口の中で何かもごもご言いながら、にげるように店の前をはなれました。

けれども、市で野菜を売っている間も、あの雪げたのことが、おみつさんの頭をはなれません。いつもは、余計な物など、ほしいと思ったことのないおみつさんなのに、どうしたことか、この雪げたばかりは、なんとしてもあきらめられないのです。

市の帰りに、おみつさんは、またあの店の前を通りました。他のお客にまぎれて、ちらりと目をやると、赤いつま皮の雪げたは、朝と同じ所にちゃんとぎょうぎよくならんでいます。

「ねえ、わたしを買ってください。あんたが買ってくれたら、うれしいな。」

おみつさんには、雪げたがそうよびかけているように思われました。

（杉みき子『わらぐつの中の神様』）

問一　①「村中の人たちから好かれていました」とありますが、それはなぜですか。空らんにあてはまる言葉を書き抜きなさい。

・体が（　　）で、気立てが（　　）て、いつもほがらかによく（　　）から。

問二　おみつさんは、いつ、どこへ、何をしに出かけたのですか。

いつ　（　　）

どこへ　（　　）

何をしに　（　　）

問三　②「それにつられたように」とありますが、「それ」とはどんなことを指していますか。

（　　）

問四　③「ふと足を止めました」とありますが、おみつさんは、なぜ足を止めたのですか。

（　　）

問五　④「思ったとおり」とありますが、どんなことを思っていたのですか。

（　　）

◎問題はその三に続きます。

受験番号		名前	

問六　⑤「すい付けられたようにその雪げたをながめて」いたとき、おみつさんはどんな気持ちでしたか。最も適切なものを選び、記号に○を付けなさい。

ア　いつかきっと買える日が来るから、それまで待とう。
イ　買えないとは分かっているが、あきらめがつかない。
ウ　買えないのなら、せめて美しさを目に焼き付けておこう。

問七　⑥「真っ赤になって」とありますが、おみつさんはなぜ真っ赤になったのですか。最も適切なものを選び、記号に○を付けなさい。

ア　高すぎて買えないのに、店の人に声をかけられたから。
イ　自分には似合わない雪げたをほしがってしまったから。
ウ　ふだん買い物をしたことがなく、慣れていなかったから。

三　次の問いに答えなさい。

問一　次の文の主語を書き抜きなさい。

①わたしはじっと静かに話を聞いていた。　（　　）
②かわいい子犬がいきなり飛びだしてきた。　（　　）
③父の熱帯魚を飼う熱中ぶりには母もあきれ顔だ。　（　　）

問二　次のぼう線部と同じ意味・用法で使われているものを選び、記号に○をつけなさい。

①このキノコは食べられる。
ア　行く末が案じられる。　イ　先生が向こうから来られる。
ウ　短い文章なら覚えられる。　エ　先生に怒られる。

②風雨によって、今にもかべが倒れそうだ。
ア　会議の内容は、きちんと記録に残すそうだ。　イ　外は雨が降り、寒そうだ。
ウ　今年の冬は雪が多いそうだ。　エ　明日、外国の首相が到着するそうだ。

③今年は雪が降らない。
ア　計画性がない。　イ　暑くはない。
ウ　失敗して情けない。　エ　速く走れない。

問三　次の各文の空らんには同じ身体の一部分を表す漢字が入ります。□に漢字一文字で答えなさい。

①（　　）が高い。　（　　）につく。　（　　）をかける。　（　　）もくれない。　□
②（　　）が高い。　（　　）につく。　（　　）にかける。　（　　）持ちならない。　□
③（　　）が痛む。　（　　）がおどる。　（　　）がすく。　（　　）を打つ。　□
④（　　）がたつ。　（　　）がすわる。　（　　）をわる。　（　　）を決める。　□

六　次のぼう線部の読みをひらがなで書きなさい。

①桜の並木。（　　）　②臨機応変。（　　）

③忠告を聞く。（　　）　④蚕を飼う。（　　）

⑤縦横に走る。（　　）

七　次のぼう線部を漢字に直して書きなさい。送り仮名が必要な場合は送り仮名も書くこと。

①現在のジコク。（　　）　②ゴミをヒロウ。（　　）

③資料をテンジする。（　　）　④ジョウケンが合わない。（　　）

⑤サンミの強い食べ物。（　　）

八　あなたの将来の夢について自由に書きなさい。

・題名、名前は書かず、一行目から本文を書き出すこと。

・正しい原稿用紙の使い方で書くこと。